

## 被災地行状報告書

平成23年7月19日 事務局長 市川 顯

平成23年7月16日（土）早朝、6時04分の東北新幹線やまびこ271号で、宝井駿之介理事と市川顯事務局長の2名で岩手県山田町へと向かった。JR東日本の東北地方振興キャンペーンの影響で、指定席は入手不能、自由席で、一関までは立ち通しの強行軍となった。

9時15分、新花巻で新幹線を下車し、JR釜石線に乗り換えて釜石を目指す。釜石線の車中から見る風景は、震災を思わせるものは何一つなく、遠野のせり出すような山と深い緑の中をのどかに走り続けた。

11時04分、電車の終点地、釜石に到着する。ここから先は車でなければ移動が出来ない。しかも、レンタカーの釜石営業所は津波で流されてしまったため、タクシーしか手段はない。タクシー乗り場に向かう途中で視界に飛び込んできたのは、ゴミの山。駅前の新日鉄釜石の駐車場に積み上げられた瓦礫の山（写真右）だった。

市内の商店街は、津波の被害で、もぬけの殻になっていた。潰された家屋の上に乗用車に乗ったままになっている空地もあった。商店の外観を見ながら何事かを話し合っている人、店舗の中を片付けている人、自転車で通る人、わずか数人しか見かけることはできない。

市内の信号機は復旧が遅れていて、警官が手信号で交通整理をしていた。





市街地を抜けると、道路に並行して土手が続いている。それが流失したJR線（写真左）だと運転手に聞かされて唖然とした。削られて、低くなっているかと思うと、土手が粘土のように曲げられている。レールは、流されたのか、片づけられたのか、痕跡がなかった。

それからの50分間、山田町の施設に着くまでは、メディア報道で見た景色が延々と続いた。



釜石市から山田町に向かうには、大槌町を通る。大槌町は、津波による火災が発生した町で、山の緑の中に、焼け焦げた黒い樹木がはっきりと見えた。（写真右）



大槌町と山田町の境も判らないまま、車は災害現場の真ん中を走って走る。この道路だけ見れば、復旧が進んでいると勘違いしそうになる。この道路は、釜石から大槌、山田を繋ぐ幹線道路として、3月5日に開通したばかりだったという。この道路がなかったら、今の状態は考えられない、復旧作業はさらに遅れていた、と運転手が説明してくれた。大槌町から山田町にかけて、幹線道路の両側は、更に被害が大きく感じられるようになった。



右の2枚は、津波の高さが良く判るという。2階建てのアパートは屋根まで、5階建ての団地は3階までが津波にえぐられたという。



以前の状態を知らない私たちには、復興の程度が実感できない。しかし、4カ月過ぎてこの程度の回復は、遅すぎると言えると思う。

本来、4か月なら、更地に新築物件が出来始めてもおかしくない。未曾有の天災であったことは間違いはないが、未曾有の人的被害になっていることも事実だと思える。



右の写真は仮設住宅である。ガードレールの上に、複数の屋根が見えると思う。安全を優先すると、こういう立地にならざるを得ないと思うが、生活物資の調達、通勤、通学、医療等、住む人には大変つらい場所に違いない。



そして、ちょうど12時に差し掛かる頃、車は山田町の施設に着いた。小高い丘の中腹にその施設はあった。数年前には「陸中海岸ホテル」として営業していたホテルである。

湾が一望でき、風通しも良く、こういう状況でなければ、快適な居住空間だと思う。庭には、乗用車が5台程度のスペースが2か所あり、其々に仮設の施設が建てられていた。1つは、入浴に使用する仮設施設で、もう1つは、建設中だが、入所者を収容する仮設施設にする予定だという。

出迎えてくれた理事長の山崎幸男氏と20分間程度の対談を行った。以下、災害調査書の内容と併せて、対談の内容をを箇条に記す。

- ・名称：社会福祉法人親和会
- ・岩手県下閉伊郡山田町山田1-11-3
- ・主な事業内容：障がい者支援施設はまなす学園と障がい者ケアホーム希望を運営

- ・被災前は、職員30名、入所者49名、通所者2名
- ・被災後は、職員21名、入所者39名、通所者2名  
(以下、理事長談)
- ・被災後に、職員と入所者の数が減っているが、これは、家族とともに他地域へ避難した人がいるためである。津波による人的被害はなかった。
- ・被災前は、山田町船越に4施設を運営していた。津波で全ての施設を流失した。はまなす学園と希望が事業を再開できた。
- ・このホテルは数年間閉館していたので、移転当初は電気も水道も通っていなかった。先ず電気を通し、水道は5月末にやっと通った。
- ・食料品は全て支援物資で賄っている。
- ・施設の復旧には、早くて3年はかかると考えている。
- ・被災による休業中の手当補償が全くないため、運営が非常に厳しい。
- ・金銭的な支援は、これが初めてであり、一番貴重な支援である。あゆみの箱さんには本当に感謝している。

対談後、宝井理事と山崎理事長で災害義援金(¥808,074-)の目録の授受が行われた。宝井理事には初めての仕事であるが、粛々と執り行っていただいた。因みに、義援金は、先立って金融機関を通して振り込まれている。

その後、食事の提供があり、わたしたちは、「被災地の支援品による食事」を体験させてもらった。もし4カ月間この食事が続いたら、栄養が心配になるだろうと思える食事だった。

職員も理事長も、愚痴をこぼさず、復興だけを考えて、じっと耐えている様子がうかがえ、金銭面の支援、希望と計画性が何よりも必要だと感じた。

12時30分、わたしたちは、施設を後にした。



拝 啓

盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度の東日本大震災においては格別なるお見舞金や支援物資をたくさんいただき心より感謝申し上げます。

我々社会福祉法人親和会は、平成23年3月11日に発生しました東日本大震災（大地震・大津波）で4つの施設を失いました。

幸いに利用者、役職員一同、推一人として欠けることなく皆元気で過ごしております。

今回の未曾有の大災害は、利用者・職員に大きな心の傷になるに違いありません。私どもは全国の皆様から励まされ、支援をいただきながら1日1日前を向いて1歩ずつ復興・再生に向け前進しております。それも、皆様からの励ましのお言葉や心からのご支援の賜物でございます。皆様から頂戴しました御恩は一生忘れることのできないものであり、お心遣いを糧に利用者・役職員共々邁進していく所存でございますので今後ともご指導ご支援の程お願い申し上げます御礼の挨拶とさせていただきます。

敬 具

岩手県下閉伊郡山田町山田第1地割11番地3

社会福祉法人 親和会

理事長 山崎 幸男

TEL 080-1666-9316

(社団法人あゆみの箱へファクス: 03-5721-6826 又は郵送)

## 寄 附 受 領 書

平成 23 年 7 月 22 日

社団法人あゆみの箱  
会 長 中村メイコ 殿

以下の寄贈金品を受け取りました。

受領年月日	受領金品	数量・金額
平成23年7月14日	義援金	¥808,074

法人・団体名 社会福祉法人 親和会

代表者名 理事長 山崎 幸男

住 所 〒028-1321

岩手県下閉伊郡山田町山田第1地割11番3

TEL/FAX 080-1666-9316



【アンケート】お手数をおかけしますが、今後の寄附事業の参考にしますのでご回答ください。

- 業務上、最も必要性の高い消耗品を3点お書き下さい。  
(トイレットペーパー、石鹸、シャンプー)
  - 外来時などに手指のアルコール洗浄の設備が用意されていますか? (  はい  いいえ )
  - 2の設問で「はい」の方、どのような方法ですか? (  (手動)ボトル  (自動洗浄)機器 )
  - 何か所に何本または何台ご用意していますか? ( 5 箇所 10 本 台 )
  - 1年間でアルコールは何リットルくらい必要ですか。 ( 30 リットル )
  - 2の設問で「いいえ」の方、用意すべきだと思いますか? (  はい  いいえ )
  - 手指のアルコール洗浄の設備が用意されていない方、その理由をお書き下さい。  
( )  
( )
- (車椅子を必要とする方にお聞きします。ご回答をお願いします。)
- 車椅子は十分に足りていますか? (  足りている  不足している )
  - 車椅子は定期的に清掃をしていますか?  
(  している  時間的に無理  そういうことは知らなかった )
  - 車椅子を定期的に清掃したいと思いますか? (  思う  思わない  よくわからない )

ご協力ありがとうございました。なお、あゆみの箱は「車椅子清掃ボランティア助成事業」を行っています。費用の負担などは一切ありませんので、施設内の車椅子を清潔にしたいとお考えの場合は、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。

情報開示: 寄贈品の授受に関する実施日、組織名、住所等は会報、ホームページにて公表されます。アンケートの内容に関しては、一切外部には公表されません。